

## トマト畑 から



第9号

## 夏が来ました

強い雨の翌日は日差しの強い真夏日。皆様、体調にくれぐれも気をつけてお過ごし下さい。

さて、次々に流れ込んだ線状降水帯は恐ろしいですね。お近くの道路、河川など大丈夫でしょうか。補修が必要な箇所があればお知らせ下さい。

次の写真は、皆様の補修要望を町の建設課に補修して頂いた多くの箇所の一部です。

①迎西の入り口 ②東明神道路 ③上畑野川水路



## こんな声聞いたよ

(Aさん) 親の田を継ぎ、米作りをしている。(8反) 肥料代や燃料代は上がり、米の値段は下がる。収入が見込めないで農業をやめて他の仕事に就きたいが、そういうわけにもいかない。米価が上がってほしい。

(Bさん) 難聴で普段は補聴器を使っているが、今使っている補聴器は仕事でヘルメットをかぶる時には使えない。補聴器を買い変えなければならないが、他市では補助金があると聞いていたので、町に問い合わせたら久万高原町でも補助金が出たので助かった。

(Cさん) 困っているお年寄りの方がいるので社協の方に訪問をしてもらいたい。

(Dさん) 文書処理の多さや英語の導入など学校の多忙化が問題になっているが、配置されるべき専科教員が配置されていない学校があるなど久万高原町でも学校の先生方の過剰労働が気になっている。

『政府に核兵器禁止条約への署名、  
批准を求める請願書』を議会に提出

《私の賛成討論》

被爆者はあまりにも残虐な原爆、核兵器を再び炸裂させてはならないと、核兵器のない世界を作る運動の先頭にたってきた。この運動が国際 NGO、Ican と連携し国連の場で花開いたのが、核兵器禁止条約。

世界は核廃絶の方向に動き出した。唯一の戦争被爆国の日本は大きな影響を持っている。一日も早く核兵器禁止条約に署名・批准し、他国にも働きかけてほしい。

その後反対討論があり、「外交上の大きな問題であり、本議会としてそれを政府に求めることは控えるべきではないか。」という意見もあった。

採択の結果、賛成者は私一人だったのでこの請願は不採択となりました。

## 平和行進に参加しました

(6月29日、10時30分より久万高原町に要請) 平和行進実行委員会の本部から3名来られました。役場から副町長、総務課、職員組合が参加、住民側からは私を含めて4名参加しました。平和教育をはじめ核兵器禁止条約への署名批准を求める請願への同意のお願いなど要請しました。役場と組合から賛同ペナントをいただきました。核兵器のない平和な世界を作ろうとの思いを新たに旧道を平和行進しました。来年は皆様もご一緒にいかがでしょうか。



しんぶん赤旗(日刊紙または日曜版)、愛媛民報の購読申込みは、大野良子または日本共産党中予地区委員会(089-947-2411)まで

## 6月議会での私の一般質問

○今回は、地域おこし協力隊に絞って質問しました。

**(問)**地域おこし協力隊の活動が住民に見え始めた。例えばラガービールやキッチンカー、旧道のゆりラボなど、協力隊の方とお会いしやすくなったと感じる。

地域おこし協力隊とは、「都市地域から条件不利地域に移住し、地域活動をしながら定住を目指すという国の制度で、少子高齢化が急速に進み、人口減少が止まらない久万高原町にとっては必要な制度だ。しかし、3年間という任期を全うし、卒業する隊員と同数の隊員が1年以内に辞められているというのは残念な事実だ。このことに対して原因をどう捉えてどのような対策をとっているか。

**(町長)**1年または1年以内で辞任する原因は起業、就職、進学、家庭の事情、結婚、活動内容のミスマッチがあった。今年度から受け入れを希望する担当課の職員に募集に向けた勉強会やワークショップを実施し、きめ細やかな募集要項を作成することとし、さらに応募者に2泊3日でお試し地域おこし協力隊を実施することにした。

**(問)**辞めざるを得ない理由が、住民とうまくいかないと、町の対応に不満があるとか悩まれている結果だとすれば改善が必要だ。昨今のニュースでも取り上げられた県内での件で、地域おこし協力隊と住民とのトラブルで任期途中で退任せざるを得なかった事例はよく知られている。久万高原町で同じような事例はないか。

**(ふるさと創生課長)**県内の事例のようなトラブルにまで発展した事例はない。当初の隊員の認識と地域の現状が相違するなどミスマッチがあったかもしれないが、多くはやむを得ない事情と認識している。

**(問)**採用された時のミッションの遂行に専念すべきか、役場や地域の都合でその時に与えられた仕事をするべきかが曖昧で悩むところだ。このような事に遭遇することなくミッションに集中できた方もおられるが、悩み苦しんだ方がおられたことは事実だ。受け入れる側として地域おこし協力隊をどのように認識されておられるのか。

**(ふるさと創生課長)**地域おこし協力隊の任務は、町の事業に関するもの、地域の活動に関するものなど様々だ。地域の活性化などをミッションとしている場合は具体的な業務や作業が明らかになっていないので自らの力で創意工夫を持って切り開いていかなければならない。町としてアドバ

イスが必要だ。受け入れ担当者には十分指導し、ミスマッチが起きないようにしたい。

**(問)**地域おこし協力隊として採用された場合、住宅の確保に苦労している。引っ越しがスムーズにいくように、例えば当面町営住宅を無料で貸すとかできないか。また、身分が会計年度任用職員ということで、公務員に準ずるなら残業手当など、待遇は守られているか。

**(ふるさと創生課長)**住宅の確保は町内の空き家情報を提供している。町営住宅の無料の貸し出しは法律や条令の関係上できない。家賃の補助として上限3万円まで支給している。待遇は採用時に取り交わした勤務条件通知書をもとに運用している。

**(問)**今後のことだが、人生をかけ、夢と希望を持って久万高原町を選んでくれた地域おこし協力隊に対して、その人の人生を預かるという姿勢で取り組んで頂きたい。

①募集の際、本町の課題に限らず、応募者のユニークな発想も含めて面談を豊かな丁寧なものにしていただきたい。

②地域に入るのであれば、事前に様子を調べ隊員に知らせたり、挨拶回りを一緒にしてほしい。

③協力隊の悩みや生活などの相談にのる担当者をつけてほしい。

「誰一人取り残さない」という言葉がSDGsの前文に書かれている。心を病んだり、体の不調を訴える隊員さんが出ないことを願っている。地域おこし協力隊に限らず、町の職員、久万高原町で働く人たちにもそうであるように配慮していただきたい。そしてユニークな取り組みが町民に刺激を与え、久万高原町が活性化することを願っている。最後に今後どのように取り組まれるかお聞きしたい。

**(町長)**全くなじみのない土地に来て頂くので相応な覚悟と勇気がいったと思う。心から敬意を表す。メンタルヘルスケアやカウンセリングを利用して活用して頂き、希望を持って将来的に暮らしていけるよう応援したい。

## おわりに



今回私が取り上げた「地域おこし協力隊の問題」についての町の答弁には反省点が全く述べられなかった事が残念だった。卒業した地域おこし協力隊員の「あとに来る協力隊員のためになりたい」という強い願いを大切に、今後ともこの問題にかわり応援したい。